

オホーツク地域における観光マネジメント

－オホーツク地域と沖縄県の観光政策の比較－

【目次】

はじめに

第1章 オホーツク地域の観光資源と観光客

第1節 オホーツク地域の主な観光資源

第1項 景観を主としている観光資源

第2項 文化財・観光施設

第3項 農作物・水産資源

第2節 知床世界自然遺産

第1項 知床世界自然遺産登録までの歴史的経緯

第2項 知床半島の地質・気候・生態系

第3項 知床の自然保護管理システム

第3節 観光客数と客層・旅行形態の分類

第1項 観光客の動向

第2項 主要観光地における入れ込み客数状況

第3項 観光客数と客層・旅行形態

第2章 オホーツク地域の観光政策

第1節 各自治体の政策的取り組み

第2節 民間による観光事業

第1項 北海道観光業振興の担い手

第2項 民間による観光事業

第3項 リピーター観光客獲得対策

第4項 東オホーツクシーニックバイウェイ

第3章 オホーツク地域の観光政策と経済波及効果

第1節 観光整備と公共事業

第2節 旅行消費と地域経済

第1項 ホテル・宿泊業

第2項 レンタカー

第3項 観光関連企業への聞き取り調査

第4章 沖縄県の観光政策との比較

第1節 沖縄県の観光動向と現状

第2節 観光産業が抱える問題

第3節 エコツーリズム

むすび

【研究の目的・課題】

オホーツク地域の観光に携わる産業がその地域にどれだけの経済効果が出ているのかを調べ、また沖縄県との観光政策による経済波及効果と比較することで日本の北と南での違いが出てくるのかを調べることを目的としている。オホーツク地域においては2005年7月に知床が世界自然遺産に登録されたことがきっかけで今まで以上に国内客だけでなく海外客、特に台湾、韓国、及び中国といった東アジア圏からの入込み客数が増加していることが分かった。しかし、観光客が増加することにより、生活環境の変化や自然環境の悪化というものが出来た。そこで、どのようにして観光を発展させながら、それら環境の維持をしていくのかといった方法を研究していくのが本論分の課題である。

【方法】

第一に、オホーツク地域と沖縄県の観光における経済波及効果が出ていると思われるレンタカー業界、ホテルなどの宿泊所、土産品店、及び観光協会や沖縄県庁への聞き取り調査を行い、その地域の政策や入込み客数などのデータなどを集計・分析したものと照合させ、まとめていく。

【結論】

オホーツク地域における観光業は現状では一次産業や二次産業には劣っているが、今後リーディング産業にしていこうといった取り組みがされている。しかし、沖縄県の観光業はリーディング産業という位置づけでありながらも観光における予算が前年比3割カットといった状態にある。その地域を観光で盛り上げていくにも地域特産物や他の地域との差別化を図り、質の高いプロモーションを行っていくことが重要となってくる。現在では、政府や旅行代理店とタイアップして外国のエージェントと話し合い、外国人向けに日本旅行のプランを促進させようといった政策がされている。これはオホーツク地域に限ったことではなく、沖縄県を含め全国的にそういったプロモーション活動が行われ、北海道に関してはチャーター便の便数を増やしていくといった政策もされていることが分かった。実際にオホーツク地域においては外国人観光客の来訪も大幅に増え、6月～9月といったハイシーズン時期の観光地周辺の宿泊所ではオーバーブッキングが起き、観光客を他の宿泊所に回すこととなった。そうした観光客の増加で、現状の政策では良くも悪くも自然や生活環境の変化していくことは間違いない。そこで、自然環境の維持・保全と更なる観光の発展を促進させるためにも、官民一体となったマネジメントを行う必要がある。

【参考文献】

知床・オホーツク観光立圏行動計画策定協議会『知床・オホーツク観光立圏行動計画の概要～地域で育むオンリー・ワン観光圏～』<http://www.abashiri.pref.hokkaido.lg.jp/NR/rdonlyres/F149F86C-81C6-40D0-ACF3-32DB49E71895/0/gaiyou.pdf> (2006年12月29日接続)。

シーニックバイウェイ支援センター編著 『シーニックバイウェイ北海道“みち”から始まる地自立』ぎょうせい,2006年。

札幌国際大学編『観光の島・北海道観光立国による依存から自立へのシナリオ』中西出版,1999年。

沖縄観光速報社,沖縄県観光商工部観光企画課『平成17年版観光要覧』,2007年。